

事業所名

同立アカデミー大和小泉教室

支援プログラム (参考様式)

作成日

R8

年

4

月

30

日

法人(事業所)理念		『小さな出来たが未来を大きく変える。』										
支援方針		障がいのある子どもたちを、ただ預かるだけの福祉施設ではなく、しっかりと教育の機会を与え、自らの人生を切り拓いていける力を着けていけるように支援をしていく。										
営業時間		13	時	0	分から	21	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容										
本人 支援	健康・生活	○定期的な身体の状態の把握。 →毎回の体温測定。また、保護者との連絡をとりながら、心身の状態の把握に努めている ○生活リズム →通所予定を定期的に組むことにより、生活リズムの安定に努めている ○身だしなみ →シャツがズボンの外に出ていないか、靴を脱いだら上履きに履き替えられるか、注意しながら上手にできる様に促している										
	運動・感覚	○姿勢の保持 →学習時の姿勢の改善に努めている。 ○SST、ピジョントレーニング →迷路や、点つなぎ等のSST、ピジョントレーニングにつながるプリントを用意している(必要に応じて使用)										
	認知・行動	○小集団での行動 →小集団で遊べるカードゲーム等を使い、小集団形成時の行動補助(声掛け等の助言)に努めている ○時計の掲示 →時計の読める子ども、読めない子どもにかかわらず、時計を指し示しながら、時間の認知および時間に合わせての行動ができるように努めている ○おでかけ(人間関係・社会性と内容は重複) →集団での認知行動および感性の育成、しルールを守る等の社会性を身につけるため希望者には一緒におでかけをするようにしている(長期休暇以外は月1回程度)										
	言語 コミュニケーション	○挨拶 →はじめと終わりの挨拶を促す ○他の人とのコミュニケーション →(直接話しかけられない子どもへの)初対面の人への自己紹介を促す										
	人間関係社会性	○友達に対する言葉遣い、態度への注意、指導 →友達に対しての粗暴なお賭場使い、また、手をあげるといった行動に対して「どうしてだめなのか」を説明(注意)し、指導に努めている →また、円滑な人間関係が構築できるような助言ができるように努めている ○おでかけ(認知・行動と内容は重複) →集団での認知行動および感性の育成、しルールを守る等の社会性を身につけるため希望者には一緒におでかけをするようにしている(長期休暇以外は月1回程度)										
家族支援		○送迎時の挨拶時、面談、連絡ツールを利用し、情報共有を常に行えるようにしている。							移行支援		○将来的な意向に向けた話し合いをしながら支援を行っている	
地域支援・地域連携		○地域行事への参加が図れるよう、情報収集を行っている ○他事業所や教育機関(相談支援事業所や別の利用福祉事業所、学校等)と連携・情報共有を行い、子どもの支援につながるように努めている							職員の質の向上		○事業所内研修、勉強会を実施することにより、理解を深める ○職員一人一人の役割を認識することで、今何をすべきなのかを考える様に促す	
主な行事等		○季節のイベント(クリスマスや節分)、調理実習や、理科実験、工作、おでかけなど(長期休暇及び祝日に行っている)										